

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月26日

事業所名 つむぐ住之江

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		基準以上のスペースを確保し、学習・活動スペースを設けている。	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		基準に適した人数を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		遊ぶスペースは区切る等、視覚的にわかりやすいようにしている。	現在バリアフリーが必要な利用者がいないため実施していないが、その都度配慮する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		1日に数回、清掃・消毒を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		毎月職員会議をし、内容をノートに記載した上で、周知し、業務改善に努めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		評価表を基に保護者等の意見を把握し、サービス・職員の質の向上を図っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		ホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		現在はしていないが、今後機会があれば外部評価を受け業務改善に努めていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		定期的に職員研修を実施している。また、外部研修にも参加している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		保護者との面談を行い、職員間で会議をして計画を立てている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		アセスメントシートや評価キットを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		ガイドラインを参考に、利用者に適した項目を個別性に合わせて支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>		全職員に支援計画の把握をしてもらうようにしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		月間プログラムを常勤職員で話し合い、立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		利用者に定着するよう、固定化しているものもあるが、毎月異なるプログラムを作成している。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		個別・集団双方の面から支援できるように計画を作成している。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		個別のスケジュール、課題の確認、役割分担の共有を朝礼で行っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日終礼を行い、利用者の気付いた点などを話し合い共有している。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録は当日にとることとし、職員で共有し支援の検証・改善を行っている。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月に1回以上モニタリングを行い、計画の見直しの必要性を検討している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議には児童発達支援管理責任者が参加し、会議内容を全職員に周知している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		現在はしていないが、今後機会があれば連携していく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在医療的ケアを必要とする利用者がいない。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在医療的ケアを必要とする利用者がいない。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			現在対象となる利用者がいないため実施していない。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		入学前には、小学校と連携を図り、情報共有をしている。	来年度より小学校へ入学する利用者がいるため情報共有、相互理解を図る。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	児童発達支援事業所とは積極的に連絡をとり、助言を受けている。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	施設外活動では、地域の公園に行き交流を図る機会を取り入れている。	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		機会があれば、参加したいと考えている。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に口頭や連絡帳で伝え、保護者から家庭での様子や気になる点を伺っている。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者から相談があった場合は支援をおこなっている。	今後は積極的に支援を行っていく。	
32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学時に支援内容の説明をし、契約時には重要事項・契約書の説明を行っている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者に計画を示しながら、内容の丁寧な説明を心がけ、同意を得ている。また、内容の変更があれば随時説明を行っている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時に口頭や連絡帳で保護者からの子育て等の悩みを聞き、必要に応じて面談を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今後は開催を検討している。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談窓口(管理者)を設置し、相談や申し入れがあった場合は迅速かつ適切に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNS、ライン等で活動を掲載している。月に1回行事予定を発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報に関する書類は鍵付き書庫に保管し、職員に対しては雇用契約時に指導している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		児童・保護者に対して分かりやすい方法を考え、正確に伝わるよう配慮している	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍であったため地域住民の方を招待する行事は開催していないが、今後は開催したいと考えている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各マニュアルを作成し、定期的に職員研修を行い周知している。	保護者への周知は今後行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前に保護者に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	医師の指示書のある利用者はいないが、契約時にアレルギーの有無を確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		記入しやすいように工夫し、職員間で周知している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を設置し、職員に対して研修を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		現在身体拘束は行っていないが、今後行う場合は、身体拘束適正化委員会を通して、組織的に決定し、十分な説明・了承を得た上で計画に記載することを周知している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。